

研修で
学校が
変わる

中堅教諭等資質向上研修①

教務主任研修のまとめ

平成30年4月24日(火)
国府町コミュニティセンター

マルチレベルアプローチで
誰もが行きたくなる学校をつくる！

～学校不適応未然防止に向けて児童生徒につけたい力とその具体策～

講師 栗原 慎二 氏 (広島大学大学院教育学研究科 教授)

「我々はかつて川の下流でおぼれた子を救っていた。しかし、これではいけない。これからは川の上流で泳ぎ方を教えよう！」



生徒指導の主要問題と教師の現状

- ◎我が国の生徒指導上の問題(いじめ・不登校等)はOECD諸国の中で最も少ない
 - ▲問題の質を変えるのは経済格差→我が国も経済格差拡大傾向→不適応・引きこもりの増加
 - ▲教育相談によると不適応・引きこもり候補は発達障害(グレイゾーン)が関係することが多い
 - ▲子供たちの問題は深刻になっている→担任の力で必要なスキルを教えられるか→閾値を超える研修が不可欠
- 学校現場は時間をさいているが問題は解決せず 解決の道筋も見えない 現状打破の研修も受けられない

↓
マンパワー(特に個人力)にのみ頼るのではなく システムを変えて対応する必要がある

子ども集団の変化・個々の子どもの変化

- ▲集団(目的や目標を共有するある程度組織化された集まり)ではなく集合(単なる集まり)になっている
- ◎何を育てて どんな人間にする→「思いやり」「肯定的認知(自尊感情)」「自分はできる(効力感)」
- ◎人間関係の中核は信頼関係→信頼関係の中核は理解(信頼できる=理解してくれる)
「わかること」と「わかっていることを伝える」は違う→伝えないと信頼は生まれない
- ▲感情読み取り能力の低い子どもの増加→情動の理解から対人関係スキルの育成→教師のスキルも不足

現状打破のための

4つの主要プログラムで基礎的汎用的能力の育成

- ①SEL(社会性と情動の学習)
- ②ピア・サポート 生活場面で助け合う
- ③協同学習 学習場面で助け合う
- ④PBIS 価値的行動を身につける

先行実践(総社市)
平成22年度から主要4プログラムを教育課程に取り入れて、一貫・継続した学校経営を市全体で実施している
→暴力行為・不登校・学力ともに大幅改善

参考文献

- ①アセスの使い方・活かし方
- ②マルチレベルアプローチ
- ③PBIS実践マニュアル&実践集以上 本の森出版

参考になるサイト

AISES
(一般財団法人学校教育開発研究)

<http://aises.info/about/>

誰もが
行きたくなる
学校

参加者の感想

- ・未然防止という言葉の本当の意味がわかったので自校の実践につなげていきたい。
- ・ピア・サポートの視点が自校では弱いように思ったので、それを強化する取り組みを意識して入れたい。
- ・小学校6年間の先を見据え、必要なスキルを身に付けさせたい。そのためには全職員にもスキルが必要なので研修を実施したい。